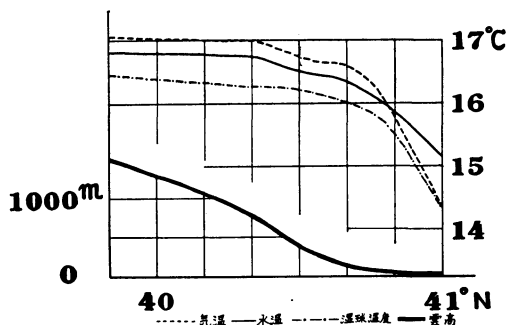


6月の横断観測でシーリングバルーンによる雲高を観測しており、目測の雲高も考慮し、暖気北上に伴う雲底高の低下状況を示すものとして第3図を得た。これには気温や水温の値も入れているがこれ等はそれぞれの値の分布図を緯度について求めた平均値である。大体水温



第3図 暖気北上に伴う雲高の下降

16°C以下が東岸霧で層雲の高さは50m、厚いときで30mであった。ソ連邦の船舶資料によれば、この霧は間宮海峡方面から沿海州沖を南下してウラジオストック付近一帯の海上に拡がっている模様で、等水温線の密集した極前線以北（ほぼ16°C以下）に発生している。この霧の限

界である等水温線は8月航海では20°Cと2ヶ月で4°C上昇していた。また、東岸霧の前縁は気層が安定していると思われるにもかかわらず積雲系の雲から降水を見ており、観測線近くに極前線があるのを示す。これが日本海北西部に前線の発生を促すものかも知れない。

5. むすび

昭和38年以降のソ連邦の船舶資料等によると、日本海の霧は4～6月にかけて発生しており5～6月には広範囲なものも見られる。しかし今年は発生期間も長く且つ広範囲のものが多かった。これは清風丸が今年始めて霧を観測し、しかも43日の航海日数中約1/3に当る13日が霧日数となっていることでも明らかである。霧の発生のみについて気象状況を要約すれば、①小笠原高気圧が発達して日本海北部に張り出すとき、②本邦や以南をとる台風や発達した低気圧が日本海に暖気をもたらすとき、または①②の複合する場合、③日本海を通過する弱い低気圧の周辺や、やや発達した低気圧の寒冷前線後面一帯である。このうち①②が最も多く、これらは③の弱い低気圧を伴うこともある。このことは本年(1965年)は例年より日本海に暖気が侵入した異常年と見てよい。

訪中学術代表団の派遣について

日本気象学会国際学術交流委員会

今回日中友好協会学術委員会の斡旋によって来る8月中旬より1ヶ月の予定で、医学、地球科学関係者を中心として訪中学術代表団10名を送ることになりました。

さる4月の常任理事会では上記の件につき気象学会として協力し、もし代表団員に当学会員を加えることができれば募金その他について努力することになりました。つづいて、去る5月の春季総会で常任理事会から緊急議題として会員の賛同を得ました。

以上の経過にもとづいて人選が当委員会に一任されましたが、何分短時間に候補者を推薦する必要に迫られ、全国的には十分人選する余裕がありませんでした。この間関西支部から橋本清美会員（大阪管区気象台主任予報官）を正式に気象学会の代表として推薦してほしい旨理事長あて要望がありました。当委員会としても種

々検討の上同氏を候補者として常任理事会に推薦しました。

去る6月6日の常任理事会では、橋本清美会員を気象学会代表として、訪中学術代表団員に推薦し募金その他で会員の協力をお願いすることにしました。

募金（目標約20万円）の具体的方法については、次号（天気6月号）に掲載したいと思います。

なお橋本会員は気象学会を代表として訪中されますので、日中の気象学術交流に関する学会員の要望又は希望（別刷交換など）がありましたら至急当委員会まで御連絡下さい。

以上の趣旨を御了承の上、これからはじまる募金その他について会員の切なる御協力をお願いします。